

議 事 録

件 名	第3回 登別市水道ビジョン検討委員会	
日 時	平成26年11月21日(金)	自17:30 ~ 至20:00

検 討 委 員 会 内 容

1. 開会

- ・第3回 登別市水道ビジョン検討委員会を開会。

2. 議題

【第2回登別市検討委員会の議事録】

- ・事務局より、第2回登別市検討委員会の議事録について説明し、内容に対して各委員の了承を得た。

【第2回登別市検討委員会の質疑に対する回答】

- ・給水人口の減少割合に対し、一日平均給水量の減少割合が大きい理由について、事務局より、漏水対策を実施し、無効水量を少なくする計画である旨を説明した。
- ・未収金の状況及びその対策について、事務局より説明を行った。
- ・各委員より、企業会計上、3月31日で処理することは仕方がないが、未収金と滞納状況を分けて整理する必要があるとの意見があった。
- ・転出者への対策として、市役所へ届出が行われた際に、水道グループへも連絡される方法を検討すべきである。

【第3回登別市水道ビジョン検討委員会の内容】

- ・第3回登別市水道ビジョン検討委員会の報告、意見交換の内容について事務局より説明を行った。

<財政収支の見通しについて>

- ・財政収支の見通しについて、事務局より説明を行った。

(委員)

- ・約8.5億円の収益がある企業で、内部留保資金3億円は法律や企業会計法で決められているのか。
- ・内部留保資金は、フラットにした方がよい。
- ・被災時等備えとのことであるが、国の方策であれば国が費用を出すべきではないか。

(事務局)

- ・本来、内部留保資金は建設改良費分に近い額を積み立てておくことが望ましいが、現在はそのような状況にない。
- ・法律などで定められているものではないが、運営に必要な金額として3億円と想定している。

(事務局)

- ・内部留保資金は、運転資金としても一定程度持つ必要がある。一時的な借金をしないために、登別市の水道事業でも3億円程度は必要である。
- ・内部留保資金が後年次に増加しているのは、後年次の配管の事業量等も低く抑えているため。事業費の平準化等で工夫する必要がある。

(委員)

- ・強靱化は、国の政策が変わったことによるが、補助金はないのか。

(事務局)

- ・厚生労働省の補助金は全体金額が小さく、採択要件も厳しいが、活用できるものは活用していく。

(次頁に続く)

検 討 委 員 会 内 容

(委員)

- ・水道料金に代わる新たな収入はないのか。
- ・地下水資源の保護として、地下水を使用している需要者に負担金を求めているところもある。

(事務局)

- ・地下水と上水を両方使用している大口需要者への費用負担の在り方は他都市でも事例があり、検討する必要はあると思う。

(委員)

- ・地下水利用者は、河川放流を行っている想定されるが、河川放流時の負担金を計上してもよいのではないかと。

(事務局)

- ・基本的には下水道の施策とするところと思う。

(委員長)

- ・地下水から上水道への転換は、既存施設の給水能力が限られているため、新たな施設整備が必要となる場合があり、対応が難しい。

<職員アンケート結果について>

- ・職員アンケート結果について、事務局より説明を行った。
- ・特に質疑等は無し。

<理想像と基本理念について>

- ・理想像と基本理念について、事務局より説明を行った。
- ・特に質疑等は無し。

<目標設定と実現方策>

- ・目標設定と実現方策について、事務局より説明を行った。

(委員長)

- ・施策の優先順位が高いと思う施策について意見を伺いたい。

(委員)

- ・検針など民間に委託できる項目があるが、なぜ今までやってこなかったのか。
- ・民間企業では、経理は外部委託している。

(委員)

- ・平成 29 年に料金改定が必要とのことであるが、急に出てきた話なのか。
- ・もっと前から資金を積み立てていかなければならなかったのではないかと。
- ・施設の更新が必要なのが分かっているのにこれだけ（内部留保資金 5 億円）しかないのか。

(事務局)

- ・今回はあくまでも平成 29 年に料金改定を行ったとした場合のシミュレーションとして提示した。
- ・平成 19 年に料金改定を行っており、その時に 15.53%の改定率を要望したが、10%の改定率に留まった。
- ・当時の訴え方が弱かった。
- ・市民に必要性を理解してもらわなければならない。
- ・昔は 3~5 年で料金改定を行う予定であった。

(次頁に続く)

検 討 委 員 会 内 容

(委員)

- ・市内の業者と共同で商売を行ってはどうか。

(委員)

- ・平成 19 年の料金改定時には、議会に 15%の改定が必要なことを十分に説明できず、理解してもらえなかった。
- ・施設の老朽化は明らかであり、料金改定後に議員を含め、対策を検討するために委員会が開かれたが、解決策は得られなかった。

(委員長)

- ・前回の料金改定を踏まえ、議会、市民へ理解を深めてもらえるように、私たちから提案していくこともできる。

(委員)

- ・市民の立場からすると登別は雨が多いため、水が多いのになぜ水道の問題が出てくるのかわかっていない。
- ・私も施設を見て、施設が古く問題があることが分かったので、市民の方にも施設をみてもらう必要がある。

(委員長)

- ・再度、委員会を行いたいがいかがでしょうか。

(委員)

- ・この資料に沿って意見を出し合うのか。

(事務局)

- ・資料はもう少し工夫するが、持続、安全、強靱に分けたこの資料をベースとして意見交換を行いたい。

(委員)

- ・各団体の代表としてきている。
- ・団体の意見を聞いて、発表することが大事。

(委員長)

- ・それぞれの立場での意見を頂きたい。

(事務局)

- ・12月上旬に次回委員会は設定したい。
- ・この資料に基づき、3つのテーマごとに意見を伺いたい。

3. 閉会

- ・第 3 回 登別市水道ビジョン検討委員会を閉会。

—以上—